

相生小学校 「学力向上実行プラン」

- 課題解決に向けて、身に付けた資質・能力を活用できる授業の実践
- 家庭と連携して、主体的に学習し新たな課題を見つけ学び続けようとする活動の実践

学力向上推進員 教諭 大建 香織	委員委員	校長・総括 教頭・総括補佐 教務主任 研修主任 特別支援コーディネーター	谷 多美子 宮本 和美 徳野 千寿 大建 香織 前田 智美 波戸 千聖
	校長 谷 多美子		

校長

谷 多美子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】
管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取り組み状況について把握し、改善を図ったり、効果的な方法を共有したりする。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前時の振り返りの工夫や反復学習を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能が定着してきている。 ●言葉に対する児童の意識は高まっていると感じられるが、語彙力を増やす指導の工夫が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・話をしている人の方を向き、うなずきながら聞くことができる。 ・語彙力を増やし、より適切な言葉を用いて話したり、文章を読んだり書いたりすることができる。	・話し方・聞き方等の掲示物等の効果的な活用が学年間で差異があったので、年度始めに確認、共通理解を行うようにする。 ・学力テストやステップアップテストの結果・分析を活用した授業改善への取組を校内研修で組織的に行う。	・学力テストやステップアップテストの分析結果を授業改善に活かす。 ・学び合い研修だけでなく、授業改善に向けて短時間でも授業を見合う機会や相談し合う機会を取れるようにする。	・学級や児童の実態把握に努め、前時の振り返りや反復学習等の取り組みにより、児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着に全職員が成果を実感している。しかし、学力テストやステップアップテストの分析結果を生かした授業改善や朝活の時間の活用の仕方に改善の余地がある。	・学力テストやステップアップテストの分析結果を活用した授業改善への取組は全体で共有が充分でなかったため、次年度は授業力向上研修を年3回以上実施し、組織的、計画的に授業改善に取り組む。 ・朝活の時間を基礎的・基本的な知識・技能の定着を目標として、学級で工夫する部分と学校全体で共通して取り組む部分を明確にする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話合うことや、自分の意見を理由や根拠を明確にして伝える事への児童の関心は高まっており、特別活動の研究の成果を授業改善に生かすことができた。 ●相手の話をよく聞き、相手の意見を受けて、つなげたりまとめたりする力が十分身につけていない。	・相手の話を最後まで聞き、自分の意見を理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめたりできる。 ・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく伝えることができる。	・各教科の育てる資質・能力を明確にし、評価と指導の一体化につながる授業研究を計画的に進める。 ・「徳島版読解力」の育成をめざし、共同学習を通して他者から考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現できるようにする。	・特活の“つなぐ話し合い”にもつながるよう話し方・聞き方を活用していく。 ・「協働的な学び」のモデルと共有する。	・評価と指導を一体化させた授業への取り組みについては、85%以上の教員が成果を感じており、指導力の向上と児童の学力向上にも効果的だと評価できる。 ・「徳島版読解力」の5つの力の内、「発信する力」は、半数以上の教員が身につけてきたと感じているが、「必要な情報を取り出す力」や「比較・関連付けて理解する力」においては十分ではないと課題を感じている。	・単元の導入時に単元全体の見直しをもたせ、児童の「問い」からスタートする学習をする等、具体的な方策を全校で共通認識し、自分たちで課題を見つけ、解決策を考えていく過程で、思考力や判断力の育成を図る。 ・子ども新聞や思考ツールを活用し、「徳島版読解力」の十分でない力の育成に取り組む。 ・特別活動の成果を基盤にした教育課程の充実に取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題は、真面目に一生懸命取り組むことができる児童が多い。 ○夢や目標が決まっている児童が増えてきた。 ●半数以上の児童は、自主学習に意欲的に取り組む事ができるが、見直しをもち、計画的に学習を進める力については十分とは言えない。	・決められた課題だけでなく、学ぶことに興味や関心を持ち、自ら課題を見つけて計画を立て、主体的に学習に取り組んだり、話し合い活動等を通して学びを広げたり、深めたりする中で、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・学習した内容に関連する本や自分の興味・関心がある内容の本を進んで手に取り、読書に親しむことができる。	・「阿波っ子タイムズ」等児童にとって身近で関心のある教材を効果的に活用し、学習の意義と児童の目標とが関連付くように工夫する。 ・読書習慣の定着に向けて、読書推進の取り組みを継続していく。 ・自己有用感や自己指導能力の育成を主体的に学ぶ態度や技能につなげる。	・各学級で自学ノートへの取り組みが更新されている。「学級便り」等を活用し学力向上に関する内容を家庭と共有する。 ・学級文庫の充実、週末読書、朝活の読書等読書の推進に取り組む。 ・ポジティブな行動支援を取り入れる。	・自己有用感や自己指導能力の育成への取り組みは9割以上の教員が成果があったと評価した。また、8割の教員が学力向上に関する内容を家庭と共有するよう取り組むことができたことと答えたが、学習や家庭学習等への新聞を活用した取り組みについての成果は3割の教員が十分な取り組み、成果が感じられなかったと回答した。 ・読書活動の充実については、読書時間の確保や学級文庫の充実に取り組むことができた。	・朝活の時間に「阿波っ子タイムズ」等を活用した学習に全校で取り組む。さらに、中学校の実践と繋がりを意識して取り組む。 ・引き続き読書活動の充実をめざし、時間の確保と学級文庫の充実以外の取り組みについて共有を図る。 ・自学ノートに目標や反省を記入し、サイクルで学びがにつながるようにする。学年便りを通して、家庭と連携し、自律的な学習者の育成に取り組む。

令和6年度 学力向上ロードマップ

